

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

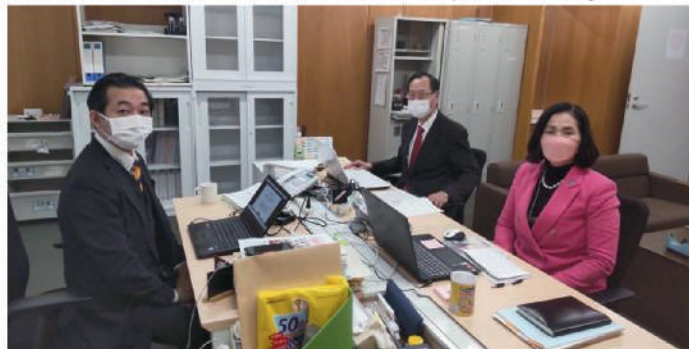
町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
☎ 042-795-7361 (FAX: 必
要に応じて186を頭に加える)
議会 042-724-2171
yoshidaben@gmail.com



工芸館建設入札が2度不調の緊急質問

(仮称)町田市国際工芸美術館の建設契約は2度にわたって不調になったことと、その影響、今後の取り組み方針に関して、無所属会派の新井よしなお議員が定例会最終日に本会議で緊急質問を求める動議を文書で提出(会派総意)しました。会期中の一般質問の答弁と事態が変わったための質問です。



議会運営委員会の判断は、所管の常任委員会で「行政報告」が行われているという理由で、質問の発言要求には反対の意見が多く、多数決が図られ、否決となりました。委員会では市長などの理事者は出席しない原則であり、議員も所属議員だけが参加するもので、本会議と目的も違っています。本会議の一般質問や緊急質問では、議員が考える解決案の「提案」も含まれるものです。議会運営の扱いルールで緊急質問を取り下げるといふ扱いになり、何も存在しなかったという経過になりました。果たして、市民からの建設反対の意見も多く、建設を請け負う業者からも敬遠される(仮称)町田市国際工芸美術館の建設はどうなるのかと思いますが、最悪の事態は、市外業者が随意契約で受注し、のちのち費用が追加されることでしょう。

空き家の課税と負担金の可能性

住宅地域で長く空き家になったところが出ています。そうした家屋では、周囲に草木が生い茂ったり、建物の老朽化が激しくなり、その一部が隣接住宅に倒れ掛かることも起きます。さらには、ゴミが放置されて不衛生になった、不審な人物が出入りして治安の問題も起きかねないと考え、一般質問を行いました。

これまでの行政施策では、それらを調査するための費用が予算化されその実状が明らかになりつつあります。現状では、小規模の住宅には固定資産税が軽減(200㎡以下では6分の1となる。都市計画税は3分の1)されていますが、この空き家状態が長期になって、安全上や衛生上の危険性が認められると固定資産税の減免を無くす(特定空き家)制度が2015年から施行されていますが、それではまだまだ不十分であり、最終的には、周囲に危険が及ぶ場合に行政が取り壊してその費用を持ち主に請求する制度が取り入れられていますが、現実的にそれを執行する例は一般化している状況ではありません。思うに、市街地住宅においては、上記の特定空き家に対して、新規に優良住宅維持の負担金を出してもらうのが適切ではないかという趣旨の提案をしました。



手入れが行き届いた良好な住宅地の一例

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎町田市内企業が開発した「水耕栽培メロンの世界一決定戦」を開催しよう!

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしました

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP

メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
夏季の第52期生を募集開始

食品輸出の展示会：日本の食品輸出 EXPO

東京ビックサイトに出向きました。数百のメーカー、商社、輸出関連団体が展示会に出展しており、日本の食品輸出 EXPO の各コーナーを見てまわりました。



もちろん、輸出と言う面から加工品のメーカーの割合が多かったのですが、大手ハム会社のような全国ブランドの企業もあれば、地域の特産品を出展するものまだ広範囲に並んでいます。あるいは、超大手企業の関連会社が新たに食品輸出を手がけるケースもありました。

この日は、商品の貿易を前提にした海外からの来訪者がとても多くなっていました。街でも訪日外国人が目立っている姿をさらに印象付けるものでした。展示会場は、具体的な商談の場になっていました。随所に商談のコーナーが設置され、席が埋め尽くされていました。また、販売サイドに少なからずの外国人の方が働いていました。中国、韓国の人に限らず、欧米人、東南アジアの人が日本企業で働くケースが増えてきた模様でした。会場の規模、人の流れから、1万人を超える人が集まっているようです。食品で言うと、日本は圧倒的に食料輸入国ですが、こうした海外輸出をめざした企業の事業も十分にやっつけける姿を見出しました。

熊本のお城納豆と徳島の阿波尾鶏の展示

日本の食品輸出 EXPO の展示会には、多数の発酵食品のメーカーが出展していました。味噌、醤油、みりん、納豆の会社が様々な製品を並べていました。

九州では少ない納豆のメーカーが出ていました。熊本の丸美屋食品と言い、ブランド名はお城納豆と称し、昔ながらのパッケージとくまモンの絵柄入りの両方が出されていました。新しい取り組みでは、学校給食用にたれ付けのスティック納豆を発売し、好評を博しているということでした。食品ロスを減少させる方法として、個食に対応しているのでしょうか。



また、食肉分野では、徳島県の特産「阿波尾鶏」の輸出を手掛ける東水産のブースでは、東社長と面談する機会を得ました。流通の発達がそうした事業を推進していました。



◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2023年3月末までに104名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。